

2 HOT NEWS

内モンゴル・大レアアース鉱発見

新華社の報道によると、内モンゴル自治区呼和浩特市(フフホト)市武川県趙井溝で大規模なレアアース資源が存在することが判明した。趙井溝では地下800メートルまでに2000トン以上のニオブ(niobium)、タンタル(Tantalum)が埋もれていることが判明している。ニオブとタンタルは科学性質が似ているがニオブはブラジル、タンタルはオーストラリアとコンゴが主な産出国となっている。

山形と山梨からの食品輸入を解禁

中国国家質検総局が6月下旬、輸入規制を行っている日本の農産物のうち、山形県と山梨県産の2県の産品について食用農産物と飼料の輸入を解禁することになったと伝えている。関係者によると、福島原発事故により福島など12都県の地域の農産物や食品の輸入を禁止していたが、日本国内の汚染分布状況を考慮し山形県と山梨県産の食用農産物と飼料については輸入禁止を解除することになった。またその他の10都県の食品については引き続き輸入措置が継続されるとしている。

初の数次ビザ取得中国人が沖縄に

7月1日から沖縄への中国人観光客らが数次ビザ取得してから7日、北京、上海空港から沖縄に着いた。中国人観光客に数次ビザを発給するのは初めて。有効期間は3年。1回の滞在期間は最大90日で、これまでの一般個人観光ビザ(1回のみ有効)の15日から大幅に延長された。ビザ取得後1回目の訪日時に、沖縄で1泊以上することが条件。2回目以降は日本のどこを訪れてもいいため、東日本大震災で影響を受けた日本の観光業界の期待が高まっている。

中国最大果汁飲料メーカー 日本に進出

匯源集団が丸紅と提携

中国最大の果汁飲料メーカー匯源(フイユエ)ン集団は北京で7日、丸紅株式会社と戦略提携に関する覚書を締結した。匯源集団の朱新礼董事長は、「同提携により、当社はより安定的で質の高い原材料を確保できる。また丸紅の販売ルートと関連会社を通じて、日本に進出する」と表明した。丸紅は匯源とは日中だけでなく世界各地での共同事業展開を検討する。

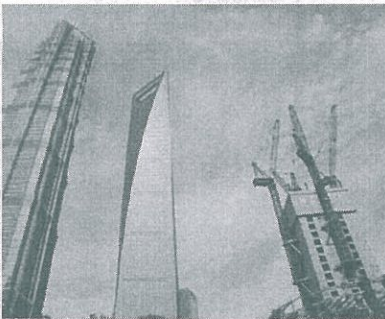
同覚書によると、丸紅株式会社は匯源集団が生産する濃縮果汁およびジュレの、日本での販売代理権を獲得する。匯源集団は丸紅株式会社を通じて、リンゴや白桃の濃縮果汁およびジュレを、日本および海外市場に向けて販売する。丸紅が匯源に供給するのはブラジルなどで調達するオレンジやアブドウの含まれることに関して、同



果汁。健康志向の高まりで中国の輸入果汁量は2010年の10万トンから3〜5年後に30万まで増える見通しで、丸紅は中国への果汁輸出拡大を狙う。丸紅はインドなどで調達する茶葉やコーヒー豆も供給する。丸紅が匯源集団に提供する原材料にコーヒーが含まれることに関して、同

集團の関係者は、今後コーヒー類を取り扱う可能性を排除しないと述べた。匯源は100%果汁飲料の中国最大手。仏食品大手ダノンの提携などで成長した。米コカ・コーラが08年に買収する計画を表明したが、中国当局は独占禁止法上の理由から買収を認めなかった経緯がある。

中国一高層ビル「上海タワー」100層突破



上海浦東陸家嘴地区に現在建設中の「上海タワー(上海中心大廈)」が7月1日に100層の高さを突破して、最終予定の632層に向かって順調に工事が進んでいる。上海タワーは浦東の高層ビルが集まるビルの中でもナンバー1、2を誇る「上海環球金融中心」と「金茂大廈」のすぐ傍の一角に建設されており、完成するとビル本体の高さは580層、アンテナ部分を含めた塔の最高部は632層で、東京のスカイツリーの634層には僅かに及ばない。完成は2014年の予定で完成時には3万人分のオフィススペースが生まれるという。(写真は6月23日の状態、左が金茂大廈、中・上海環球金融中心、右・建設中の上海タワー)

日中ビジネス交渉人 徐静波の

日本企業へのメッセージ 166



北京―上海高速鉄道(中国版新幹線)が開通して4日目に上海から乗車した。CRH380A系の新幹線に乗り込んだが、これは中国が日本の川崎重工から車両技術を買った、青島の中国南方車両基地で生産したものである。

上海から出発して時速200キロから300キロに加速、最高で350キロに達した。

中国鉄道部のスポークスマンによると、中国高速鉄道は中国の知財による独自の技術で、これは日本を越えた技術だと断言する。しかも中国はこの独自の高速鉄道技術を日本に輸出することを希望しているという。

中国は2006年に日本から新幹線の技術を導入し、2010年「中国国産」の新幹線ができた。わずか5年で日本の新幹線50年の道を走破したのだ。この期間に「導入、消化、刷新」の三つの過程を経たとは到底信じられない。

私は中国語のブログに「中国高速鉄道は日本を踏襲したのか」と題した文章を掲載して、大きな反響を引き起こした。多くの中国のウェブサイトで転載され議論が起った。

私の論点は、中国が2007年に日本の「はやて」新幹線を導入して組立て生産

中国鉄道部は謙虚な精神が必要

しかし、高速鉄道(新幹線)の運行は350キロ出たからといって成功とはいえない。運行は車両、レール、線路、電力供給など多方面に関わる、総合的なシステムである。当然中国は、日本の先進技術を学ぶことは知らない」といっている。

私は中国鉄道部に言った。中国の高速鉄道の発展は大変立派なことだ。自慢に値するのだが、謙虚に日本に学ぶべきだ。少し結果が出たからといって自慢し、日本の新幹線技術を攻撃したり締め出したりの意見などはおかしな。この意見を得たことは思いがけないことだった。「我々は日本製品の排斥を叫ぶばかりで、謙虚に日本の先進技術を学ぶべきことを知らない」という人はいない。

京滬北京―上海高速鉄道営業11日目の7月10日、雷雨のため山東区域で停電し、旅客は蒸し暑い車内に2時間余り閉じ込められた。翌日はまた送電線を切れた。日本の新幹線では起ることはないことを祈っている。

したCRH2「和階号」は、完全に日本の新幹線技術であるということだ(中国では「国産」と言っている)。現在のCRH380A型高速鉄道列車の車両は基本的にやはり日本のJR500系新幹線に似ているが、時速350〜380キロの動力システムなどは中国が開発したもので中国の知的所有権だ。私は中国鉄道部に言った。中国の高速鉄道の発展は大変立派なことだ。自慢に値するのだが、謙虚に日本に学ぶべきだ。少し結果が出たからといって自慢し、日本の新幹線技術を攻撃したり締め出したりの意見などはおかしな。この意見を得たことは思いがけないことだった。「我々は日本製品の排斥を叫ぶばかりで、謙虚に日本の先進技術を学ぶべきことを知らない」といっている。

プロフィール 中国浙江省生まれ。1992年東日、東海大学大学院に留学。2000年、アジア通信社を設立。翌年、「中国経済新聞」を創刊。1997年から連続14年間、中国共産党全国大会、全人代を取材。胡錦濤、温家宝、曾根康弘など要人を取材。講演、経団連、日本商工会議所など。著書『株式会社中華人民共和国』(PHP)など。訳書『勝利九敗』(柳井正氏著、北京と台湾出版)

5 参考情報

専門家：中国経済の転換点は2014年の可能性

中国の国泰君安証券の首席経済学者李迅雷氏は、今後3～5年、中国経済はゆるやかに反落してハードランディングはせず、転換点は2014年かもしれないと語った。

李氏は次のように述べている。全体的に言って、目下世界全体の景気はインフレ高進、景気減速の段階にあるが、中国経済はまだいい方だ。欧州の債務危機が提供する高い成長の代償だ。目下、中国の債務は比較的少なく、国債は7兆元(約90兆円)余りだが、無償庶民の福祉レベルもわりと低い。われわれが債務を多くとみるかわりに、主として、主に国債の国内総生産(GDP)に占める割合を見るが、中国の国債のGDPに占める割合は20%に満たず、米国は100%、日本は200%で、先進国のこの分野の債務負担はいずれも比較的重い。

李氏は、転換点が2014年に現れるかもしれないこと、理由を分析した際、この時期に中国の多くの問題が露呈するにすぎないこと、例えば地方の資金調達機関の清算が徐々に広まり、2014年には債務返済のピークに達する。2009年は融資枠が最大の年で、5年の融資が多額を占めるから、しかも地方債はおそらく10兆元前後にある。この他に、国際的に「超高層ビル呪い」現象すなわち、最も高いビルが完成した際、景気が後退(リセッション)がみられ、株式市場に暴落が生じるといふものがある。そして2014年は上海陸家嘴に位置する、中国で最も高いビルが完成する時で、このビル完成後、全国でさらに5、6棟の超高層ビルが建てられるが、どれもこのビルほど高くない。目下、李氏はまた次のように指摘している。経済の反落の時がまさにモデル転換の好機で、中国経済にはモデル転換が必要だが、このモデル転換は産業の全面的な高度化だ。ますます多くの企業がコア技術をもつ必要がある。



中国国家统计局が13日発表した統計によると、2011年上半期の国内総生産(GDP)は20兆4459億元(約265兆円)で、実質成長率は前年同期比9.6%となった。

り、比較的高いハードル(参入条件)でこそ生き延びることができ、技術レベルがわりと低く、粗利益率が比較的低い小企業はこの過程で淘汰(とうた)される。中国経済のモデル転換は既に語られて15年になる。これは一つの非常に長い過程だが、この数年、転換は比較的速いかもしれない。目下中国の小企業は5000万社あり、毎年100万社のスピードで増加している。この過程でコア技術、専門能力、科学技術レベルを有する小企業の経営は比較的良好だが、競争力の強くない多くの小企業は無論淘汰される。

北京-香港高速鉄道は15年に開通

中国の高速鉄道網(参入条件)でこそ生き延びることができ、技術レベルがわりと低く、粗利益率が比較的低い小企業はこの過程で淘汰(とうた)される。中国経済のモデル転換は既に語られて15年になる。これは一つの非常に非常に長い過程だが、この数年、転換は比較的速いかもしれない。目下中国の小企業は5000万社あり、毎年100万社のスピードで増加している。この過程でコア技術、専門能力、科学技術レベルを有する小企業の経営は比較的良好だが、競争力の強くない多くの小企業は無論淘汰される。

香港高速鉄道(廣州-深セン-香港)の広州-深セン間は通電後の調整期間に入り、今年8月に開通を予定している。また2015年には、香港西九龍線まで開通する見通しだ。

香港は高速鉄道の「南の玄関」として、中国高速鉄道網に組み込まれる。高速鉄道の香港区間の開通が香港地区と大陸部、特に珠江デルタ地区に発展をもたらすことが大きい。

中国の億万長者数 北京大学出身者が最多



北京大学の周其鳳校長はこのほど、「北京大学企業家クラブ」の設立式典において、「ここ10数年間で、北京大学出身の億万長者が79名誕生した。北京大学出身の億万長者数は、3年連続で中国大学の中で最多となった」と語った。

同クラブは、北京大学校友会(OB会)が新东方教育集団の俞敏洪董事長、北京中坤投資集団の黃怒波董事長ら8名の北京大学出身者と共同で設立したものである。その目的は、「富裕にして道を尊ぶ」企業家集団を組織し、企業の社会的責任意識を向上させ、企業家の公共道徳を養うことだ。

周其鳳校長は、「北京大学から著名学者および優秀な企業人材を輩出することができたのは、喜ばしいことだ。北京大学出身の企業家は同校出身者としての責任と使命を忘れず、富を築き財を成し、経済的利益を追求する一方で、公共の利益のために貢献して欲しい」と述べた。

米経済誌「フォーブス」が今年4月に発表した「中国長者番付」において、資産9.4億米ドル(約7500億円)で中国本土の1位になった百度の李彦宏CEOは、1991年に北京大学情報管理専門学部に卒業した。また新浪網の創始者である王志東氏、李寧体育用品有限公司の李寧董事長(現役時代は「体育王子」として親しまれた元体操選手)らも、北京大学出身の億万長者だ。

億万長者となった北京大学出身者は母校への貢献を続けており、中でも李彦宏氏は1000万円(約1億2500万円)を投じて、「李彦宏恩返し基金」を設立した。

老夜上海

中華レストラン・純正上海料理

錦江飯店北楼にあるオーロラ上海を感じさせるモダンなつく立ち、のびのびとあり毎夜、接待におき利用される。営業時間が24時間という、健康、個室あり、要予約。日本語メニューあり

ADD: 上海市茂名南路59号錦江飯店北楼11階
TEL: (021)6258-2582